

仕事のやりがい

穴を掘り進めるように絵を描きます。何か光が見えて、絵の方からこちらへ向かってくる時、ホッとします。自分の描いた絵をどなたかが、そっと観てくれている姿を見た時、喜びになります。

この仕事を始めたのは

図工や美術が大好きで、16歳の時、これで生きようと決心。その後、どう生計を立てて、生きるのか深く考えました。ある時、絵を買ってくださる方がおられ、その喜びから、人生を丸ごと、絵のための時間になりたいと感じました。



が 画 家

仕事で大変なこと

絵の内側の世界に深く入るととき、それを外の世界にお伝えしていくとき(作品展示)は、頭のスイッチの切り替えが必要になるみたいです。それが、割と大胆な転換で(笑)。もう一つ頭があると良いなと思います。でも一つの頭を大切にしていきます。

いしはら 英介 さん
北海道生まれ 下関市在住歴5年

移住編 仕事図鑑

このページは、小・中学生、高校生を対象に市内で働く人・職業を紹介しています。先輩たちのメッセージを参考に、未来の自分を探してみませんか。

すべての生物に宿る光を
絵で表現していく

大きな布に、油で溶いた絵の具を、重ねていく石原さんの奥にある何かを見つめるように黙々と作業を進めます。石原さんは絵を通して、愛を探求しているうちに、水と光の存在を意識するようになり、水は、川を下って無心に海で一つになろうとする時、気付けば生物の命を支えています。水は鏡のように、光を映し出しています。また、生物には命を輝かせる光が宿っていると感じています。人の体も70%が水なら、自分も水のように純粋になり、光を宿した絵を生み出したい。そして、愛と平和、自由と喜びを、芸術と共に、みんなの中に広げていけたらうれしいです

種子の中にすべてある

石原さんが、たくさんの人に伝えたいことは、「根も、実も、花も、種子の中にすべてあります。みんなの底の底に、必ず『地球に生まれた自分』という種子があります。光があると生きています。みんながなりたいたいものは、もうすでに、みんなの中に準備されているかもしれませんね」



海の漂着物にも手を加えて、命を宿します。



大きな絵が描ける家を探し、巡回合った下関に来ました。下関ではいろいろな発見があり、住み心地は最高です！